古今俳諧明題集

雑部

863
5
182

国立国会図書館　タイトル『古今俳諧明題集』　請求記号 863-182

ガラス使用

863-182

古今俳諧明題集雑部目錄

雑（ゾウ） 春 初葉
復 十一葉
烁 廿四葉
冬 卅二葉

紀行（キコウ） 春 従初葉至五葉
復 従十二葉至十六葉
烁 従廿四葉至廿四葉
冬 従卅三葉至卅四葉

留別（リウベツ） 春 五葉
復 十七葉
烁 廿七葉
冬 従卅四葉至卅五葉

題詠（ダイエイ） 春 従六葉至七葉
復 従十九葉至二十葉
烁 従廿八葉至廿九葉
冬 従卅五葉至卅六葉

贈答（ゾウタフ） 春 六葉
復 従十七葉至十九葉
烁 従廿七葉至廿八葉
冬 卅五葉

送別（ソウベツ） 春 五葉
復 十七葉
烁 廿七葉
冬 卅四葉

漫興（マンキヤウ） 春 初葉
復 従十一葉至十二葉
烁 廿四葉
冬 従卅二葉至卅三葉

題画（ダイグワ） 春 従七葉至八葉
復 従二十葉至廿一葉
烁 従廿九葉至三十葉
冬 卅六葉

國立圖書館
昭和 24.3.18
購入

国立国会図書館　タイトル『古今俳諧明題集』　請求記号 863-182　ガラス使用

賀　復　従八葉至九葉
烝　三十葉　冬　卅七葉

悼（イタミ）　春　従八葉至九葉
復　卅二葉
烝　従三十葉至卅一葉
冬　卅七葉

追善（ツイゼン）　春　九葉
復
烝
冬

懐旧（クハイキウ）　春　従九葉至十葉
復　従卅二葉至卅三葉
烝　従卅一葉至卅二葉
冬　卅七葉

祝詞（ノリト）并唱句（トナヘコト）　春　従十葉至十一葉
復　卅三葉
烝　卅二葉
冬　卅八葉

上世（カミツヨ）ノ歌并今世（イマヨ）旋頭（セドウカ）ノ歌片歌（カタウタ）　従卅八葉至四十六葉

古今俳諧明題集雑部

春雑

春の夜や　一紅
籬の隙の　月を待つ

假山（ツキヤマ）の　旅籠屋なりし　軒端（ハナノモリ）かな　艦亭

朱雀（トキ）なく　比叡の夕日や　霞むらん　東奴

漫興（キヤウ）

本（ホン）ケ　江戸（アヅマ）

本ノ菊植ヘしと見しハ来ぬ　山店

庚申の夜　北枝

燒ケしあとさへ惜き　芭蕉

棋のあるじさへ　其角

国立国会図書館　タイトル『古今俳諧明題集』　請求記号 863-182
ガラス使用

ふ墨に筆(フク)して後や松

紀行(キコウ)

羈旅立春(キリョノリッシュン)

旅舎(ハタゴヤ)ハ狩ぬと筆や明うし 涼佛

芳野山

山ぢ〳〵一里かすへて雪に入 仝

鶯(ウグヒス)啼るのちべそてぬけ道橋うな 仝

をあて暴(アラ)ほすくあやめ草也山 仝

多鞋にも妻のゆくへやすらん山 三橋

書寫山(レショヤサン)

何をさそ何をつゝしてか雁 涼佛

茶もうぬ・有生やあるうく 仝

よ波る社あれまさぐ海し山 瑪曉

狩男〳〵花にゆくゆく神も歟 芭蕉

妻生を、生榊しよ社や城 伊勢山田 曾北

よ〳〵哉〳〵入海をや神榊 京 煤瓜

芳野出〳〵轟のとる高山砂の 富鈴

世の中社苦ハ不思議で芳野山 野坡

妻社あハ榊に曙(アケ)〳〵ぞ高し宮 芭蕉

・ 藪梅（やぶうめ）

蕨（わらび）こぼす笑ひや梅の花　涼佛

・ 石動山（いするぎやま）

旅時雨（たびしぐれ）こゝろのいろやはちす哉　司鑑

・ 袖浦（そでがうら）

浦の名は袖湊出し郷（ホト）も少　汶上

・ 駿河路（するがぢ）

あるじ有（あり）書さへ言（こと）し山ほくろ哉　涼佛

不二を見る里うら消（きえ）やすや梅の花　仝

・ 伊吹山（いぶきやま）

春待（まち）し紀の二日も名ばかり　仝

・ 野上（のがみ）

春の雲ひろ〳〵と麦はよき　仝

・ 稲積（いなづみ）

いつ〳〵の澤（ナダ）に秋（あき）まで　仝

国立国会図書館　タイトル『古今俳諧明題集』　請求記号 863-182
ガラス使用

二見浦（ふたみのうら）

蓑の尾や夕日くれゆく二見潟　栖居

霧石（アフムセキ）

ぬれそふ磐くろやおが袖月　水樹

うぐひすやふみをくれなゐ一ト筋　西羊

描金松（まきゑのまつ）

り屋や描金（キエ）の松のくれ　希因

曽山（かぶとやま）

志ら絲に八田をうへまぜて曽山　西羊

宇津山（うつのやま）

東路や宇津の山蝉（べ）も告（と）てばより夕ぐれ　希因

鞠子山（まりこやま）

夕ひぐれまりこの蓑さぬや鞠子山　五菱

狭沢池（さわのいけ）

狭沢池の亀もうちうなづく

国立国会図書館　タイトル『古今俳諧明題集』 請求記号 863-182　ガラス使用

柳浦（やなぎうら）

緑あや雫も玉の浪にまで

　　雲を堆日を

ゆくにまぐ雲を見まぬ春の苔

　　くさぐ

山路来て何やらゆかし菫草（スミレクサ）

疲労（クタビレ）ても春の夜やぬちぢれな

苦（ヒバリ）てもよりうくにやまし絶頂（タツゲ）

凉佛

仝

芭蕉

仝

仝

九山

可登

破了

芭蕉

野坡

江戸利牛

支考

麥林

送別（ソウベツ）

ゆく春をおしの人とも雲かすみ

梅さくら二夕月もうりとも

春のあおろくと行百里

夏へまの面くと逢やぬちのも

国立国会図書館　タイトル『古今俳諧明題集』　請求記号 863-182
ガラス使用

梅花（ケイ）の題　飛び入り

一音法師甲斐のくにの梅のもと　仕損夜（しそこねよ）し

梅に又梅踏みかへよ雪の上　涼佛

一条枝郷仙窟（ヤクヲ）に　仝

碁（ゴ）もあらむ月日の長き雪の日は　芭蕉

留別（リウベツ）

ゆく春や名ごり惜しき鳥の目は　麥林

菱喰や紅ぐもとなるまでに　素堂

芙蓉山に文載しうへは時

お墓やお正月の狩場　西羊

贈答（ソウタフ）

雪吹きを分けて

一ツ飛ぶと見しは花哉　涼佛

見ぬ事

水に又影でてゐる月夜かな　曲江

いさく夜しらぬ人のもとへつかはすとて

そく古さ忘れんを思ひ出ばなを折りかな　宗祇

古き舎してかくも肥ませ

梨こがちなる人へ

松も老木花も衣の女やうにかまそ　冠子

題詠（タイエイ）

卯梅（クハイリヤウバイ）

卯梅の花さきやそろひて三日社
頷（オトガヒ）社下をぬらすもやうの雫かな　涼佛　栖居

後朝（コウチャウ）

糸柚の我袖ぬらすめざまかな　大坂　舊國

性善のうら
おもて後受（セフノ）あるを植ゑ梅　沾徳

照顧脚下（セウコセウキヤクカヲ）

りあるそそるも告（トバ）より見ぬくの　麥林

有心無心（ウシンムシン）

もそも日社人にはあれど小
・

題畫（ダイグハ）

西施之圖（セイシノヅ）

海棠の枝をそぐしあらし　猿左

国立国会図書館　タイトル『古今俳諧明題集』　請求記号 863-182
ガラス使用

筆さきの艸（ひつ）ゐ（のうふ）

後たてゝ解ちに冬ごもりかな　涼仏

酔ざめハ人の恥ぢを山ざくら　仝

青面金剛（シヤウメンコンガウ）

和田酒塞（わだざかふさぐ）

茶は信力のぬし一ハまぐさ　兎士

反哺（ハンポ）

ちゝはゝやまにハ栄（アイ）ゝ冬籠（カヲス）　江戸道春

角伐（ツノキリ）に春の来にけり

柚かよる角解（オト）しより春の風　金谷

雀社（ささ）しの

日をうけまはをかゞりがな　越後亜仁坊みさを

老人をあしでやしなふ冬籠

治薬酒や飲ふと薬缶を火にかく　三橋

寒（セキ）ノグハヨン

寒ゝと一画若（ヤ）し　

見はらすに素（ウラ）へぬけるや　葦（ツバメ）　白水

賀（が）

姿のさがありとよくをみがく

扱にくるまくほとゝぎす　季吟

あけてまつ門の松

やま梅や橋（キヤウ）杖の末を芽

丁由が書ぬくうるしと守る　加賀　万子

緑に抱く雛（ヒナ）像も待べし梅

七十のおよろこびをかぐ　凉休

八絶頂（ヤタツゲ）も見くらす峯より嵯峨

仝

丁せゞ（ふそぐ）

名よべし耳ぶくと紙むく酒を　仝

悼（いた）

まのあたりの作（なし）

蚤（ノミ）まで逃（ニ）くて悲しき蒲団（ふとん）かな　風

忙（ボウ）然（ゼン）と後（クダ）事も海老煮る　支考

死に来ても名文ありのまゝ哉　冠子

煙（けぶり）見て衣（ころも）を・ク

孫こせし時

追善（ツイゼン）

圃（ハタ）ものこゝろ秋や　梅

懐舊（クハイキウ）

碑（イシブミ）の目にもちくさを　大阜

　夢見の一句を

墓に男（ヲトコ）泣（ナキ）におもはゞ　希因

父の梅

悼（いたみ）〳〵の遠く拝ぶつゆ　深魚

　敷蓙（しきござ）の

綿の下に蔭（カゲ）くハ涙むせみもうお　涼徃

　芭蕉庵の

　　机を讃（ほめ）

もうれぐさ小鍋あらひし秋やうら　近江膳所　曲水

祝詞（のりと）并唱句（となへごと）

　梅天神（てんじん）

国立国会図書館　タイトル『古今俳諧明題集』　請求記号 863-182　ガラス使用

時に実もつのるまで自害や梅の花　拇水

霞（かすみ）

常にして跡を垂（たれ）よ紫雲のもの　涼佾

伊勢いせ

何枝末の花ともなしにひらむ　芭蕉

たうとさや扉にたまる柏樽まで　希因

唱句（モンジュ）
文殊

あな尊恵をかくして、連樽　加賀小松山叩

同
濃茶（こいちゃ）

今もその網や裏ぶくろ　未了

同
泡（あわ）

八案の道具もそろふくさ　爲谷

夏

雑

ふくふくと形りて初日の蓮花　東奴
糖に煮く笛にはすびの葉　千林

漫興（キヤウ）

恋死るも多し郭公に啼ケかな　遊女奥州
逢坂の関の清水に影を見て　江嵐蘭
なや泣むまるの母も杜鵑　大坂洒〻

寄

蓮（ハチ）

露ふくみ人をまつ花　不残
何ゆゑぞ袷にいるも五月雨　涼佾
涙をかへて

夏

暑り嫌ひなふさ湯浴（カハ）すれバ清き物哉　仝
始より四月一日

時

涼しさを蚤（トビ）蚊（カ）に喰て夏こゝろ　山嵜宗鑑
こゝちのく

行（キヤウ）

涼しさを看にして泳ぎ哉し　芭蕉

入る日やすゞ風さそふ梭桐（レウ）の花　不残
何ゆゑぞ袷にいるも五月雨　涼佾
涙をかへて

暑り嫌ひなふさ湯浴（カハ）すれバ清き物哉　仝
始より四月一日

涼しさを蚤（トビ）蚊（カ）に喰て夏こゝろ　山嵜宗鑑
こゝちのく

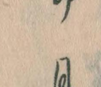
涼しさを看にして泳ぎ哉し　芭蕉

紀行（キカウ）

国立国会図書館　タイトル『古今俳諧明題集』　請求記号 863-182
ガラス使用

須磨（すま）

夏（なつ）



壺（つぼ）にもうるや夏（なつ）の月　芭蕉

卯月八日　里田にあそびて

灌仏や湖（うみ）を盥（たらひ）の涼しさや　汶上

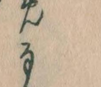
杜杖に袖の帆うけ秋の風　仝

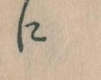
浣花を

頌ふ

友並に牛ハきるゝ水くまん　希因

箱根路（はこねぢ）





湖の下ゆく水や夏　不殘

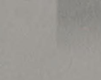
西行忌（さいぎやうたに）

菜にうき籠（かご）さくるまでは清水小　凉佛

出湯山石室（いづゆやまいはむろ）

釜ふるまでの湯ぶねかな　一嚢

夕日の



田うゑ　城の山ぎわ　神楽　涼佛

日ながうして夏至をつげ渡る

五月雨

扇子の紐うけて昼寝あつさかな　漁遠

姨捨山　をばすてやま

祖父祖母も此時捨てる田うゑかな　涼佛

川中涼　古戦場

たよく野に入みだれても田うゑかな　仝

蚊遣　おせむ宇ト　神野戸れかし　布（カンコトリ）穀　仝

高野山（カウヤサン）

糸日にも柳と見えて涼しけよ　麥林

抜きても扇も涼しふる坂　鬼士

石山（いしやま）

志づかさや岩にしみ入蝉の声　芭蕉

未ノ刻（ひつじ）頃

掻通（カキハシ）や人の休まぬ木下やみ　深魚

醒井（さめがゐ）

一ト口に誉（ほめ）ぬかいくち清水（せせ）の芹（せり）　芙白

閼伽（こがし）水（みづ）

掬（すく）ふ手に月も移りて涼しき目を　鳥酔

大井川（おほゐがは）

名でしるし大井川なれど雨つき一鼠

砧（きぬた）

砧打（うつ）柳（やなぎ）もたれて立（たち）ぬやなぎかな　芭蕉

田一反（たんぼ）植（うゑ）て立（たち）ぬやなぎかな

錦繍（にしきぬひ）

彼（かの）岸（きし）に狩（かり）葉（ば）の裡（うち）や錦がさね　松葉巴角

家上川（やかみがは）

異（こと）さらに海に入（いれ）ずも家上川　芭蕉

五月雨を集めてすゞし家上川　公

不破関（ふはのせき）

国立国会図書館　タイトル『古今俳諧明題集』　請求記号 863-182　ガラス使用

旨にまかりハ見ども不破の関　楚調

野宮（のみや）

白萩（ウノハナ）花もるる露本のうりね小　麥林

反古に疲るるくるま木ぬれ多み小　希因

秋法師のまもさびし牛　兎士

木せ落（ちくぶしま）涼しさや海にうま嘯（ヒソウセキ）教せん　素輪

雲ひくくふるに雨こそおぼろなれ　一鼠

　　和歌浦

和歌の浦ちろの帆にいるる旅へうらせタまぐれ　仝

　　宇津山（うつのやま）

蔦（ナガイモ）葎（シゲリ）も晴ぬうつのやま　許六

かくまでにものるる山路やかむてや里　乙路

　　玉津島

古井戸を蘭（ノル）きにまハばあつさ小　仄洲上田蟻城

国立国会図書館　タイトル『古今俳諧明題集』　請求記号 863-182　ガラス使用

くらし

涼しさやほの〴〵明二行後む さ　伊勢射和　三千風

ふえ吹かどたつきも志れば雪社家　西羊

小鰭鮨魚さび柄涼しやアヽ鬱丁が家　芭蕉

息つぎに柳のえりや夏野うな　蒼狐

夕涼まで小遠し来た仁瘦細葉　千系之利　委芝

糸瓜の杖はそよぐなやかうべ　江流抱布　素因

かく〳〵ぶし休めな脛おもにあはば　日名子　文兆

短夜や東の星ハ百　王負

送別

麦の穂や出ぬけてもる〻俤の中　野坡

浦風やむら〳〵俤の残の雫　伝水

祖来うし指にゆく時手は日をちぎりて

死ぬまでもと結ぶ日やかく〳〵ぶし　沾徳

涼休仔歩にゆくを

合子ブ談を歩く〳〵昭甲に乗がや指うしろ　希因

俗にとう時

蓑虫時のこやまさよ聖ケシ栗社充　尾城越人

柳五条にゆく時

泥よちこまる〳〵

蓑虫時に又ゆくもの夏やうぐ　麦浪

留別（リウベツ）

飛（ビ）かへ[illegible]情[illegible]のこも[illegible]

　　雪柳　舎を出[illegible]時

涼しさを出[illegible]ゆくや水や空　　涼佛

贈答（ゾウトウ）

　　舎雁[illegible]事[illegible]

短夜の俎（ナゴリ）彼や新（イヒキ）十ヲばうま　　支考

　　柳居[illegible]東に泊[illegible]

　　秀[illegible]小にて

見えくはなや笠とりくの綵（ヨリ）若[illegible]　　希因

[illegible]

[illegible]

[illegible]

仲秋深行あくるまでおくりて帰る

麦藁の笠つくりても十八機

涼佛

けふなども日に見ゆるの涼しさ

芭蕉

杜鵑をそだてやどせよ人に百合の花

希因

麦浪亭

そよ〳〵と涼の収穂そよぐ哉

涼佛

蚤ハうごき虱のあゆみ母ハうつべき杖もなきを

吸香庵のあはれをそ

仝

松ハなし〳〵扉のほをあらし

素園

古山亭

涼しさや瓜ぶる垂木山もなし

麥林

青簟を路人ほに昇降の梅雨の極楽図

西くまよりせりくたりに

道ハ秋のぐみ実ぶれし極れ友

とうし〳〵夏を雪にそ

仝

櫧(シイ)の葉ぬるもつけく

まを(メ)をてりこりをにおよ

涼佛

二タ川葉ぬ宇宮(ヤモリ)たのもし

仝

加の大栗も

南盧

雉あやまに外を人ハ脇(ヒヂ)まく

人〳〵

題詠

結氷

大道慶有仁義一人まく〻海の皆表に凍こりて

皆是吾子

みじうあやあづけく〻ある物俟　西華　加茂ではなく藤波

まりもやつるるさみどハ牧もふりぶ　春魚

一人まく〻海の皆表に凍こりて　凉兎

鹽焚や照海も墨染の衣　希因

漁父辭

秀ひとり晴にい居〳〵ぬかよ　素輪

鸞鳳伏竄鴞梟翱翔

帳海や笋をなく〳〵多に茶　玉貞

外面似菩薩内心如夜叉

うつくし記人とはさ合よいだ〳〵ふ　龍琴

国立国会図書館　タイトル『古今俳諧明題集』　請求記号 863-182　ガラス使用

敬戒之圖（ケイカイノヅ）

あ〳〵のほんの見せ〳〵や百合なども　西羊

題畫（ダイグハ）

扇の不ぁ　あふぎのぬしさ

涼し〳〵さや富士に絵のたなつるる　涼佛

達磨（ダルマ）

官へだいりびとまでバいそぐ　布穀（カンコトリ）

布袋（ホテイ）

なでしこに和や撫せ〳〵夕涼ミ　仝

大黒（ダイコク）

ありあげと抱〳〵出るふところぞ　涼佛

慶安（あやまち）

叶を入御燈も消さばこそ

仕丁（シテ）

人ひとを鏡の中の暑さかな　江戸　祇貞

筒ぶさぎたる女杜鵑の画に

うらひそめ息女（ムスメ）の時のぬかとこ

伊勢守流 守武

賀（が）

按臥が病より

たてまをかくし

思ふまめやうでいをうしかつて

病ほを

かく

涼佛

百卅のあまも壷ゝりさる

るたまりさる

人〳〵

双飛

戦（ヒルガホ）まも縁（クサ）たまひそいそ

まめやう一トさまに

許六

明方まうけ

まぐれうり艸像うつして懐まぐ

路通

悼（いた）

哭（こく）をうしるす

名くし

世の雪に仏さやまし百合の

おもうけ杜牧（ヤ）憐にも逢うべ

支考

れうし人の男よかな

麥林

多ハせ先ゞ牧に妓さも麻はしら

杜女文車

夏痩と他に言へなぐろう

四カ

懐舊（クハイキウ）

国立国会図書館　タイトル『古今俳諧明題集』　請求記号 863-182　ガラス使用

去ほどのハ疎しそれも夏こもり　麥林

旧菴を
たづぬる
涼しさや峠を越て一村ハ　曽良

麥林（バクリン）の碑（ヒ）
一村ハ行すへ涼しそよ風　柳居

高館（たうだち）
夏草や兵士（つハモノ）どもが夢のあと　芭蕉

宇治にて
御馬の下も雫よ冷し歓の暮　南都長江

柳浦（やなぎうら）
牧懶つぬ起ぐ悲しや波はるる　涼帆

曽我兄弟の塚
卉（ヤキ）園のそをもるし夏（ウ）木（ツホク）哉　今

祝詞の

ゆふぐもや　夢こそ添ひて神(カミ)ゐ　麥林

添ひ〳〵てゆや旗(ハタ)のなびくも　鶴岡(つるがをか)　涼佛

秋雜

秋の空北と南杉をそろふる　其角

よりくとて茶店やゝ秋の　凡兆

蚊帳(カヤ)たゝむあや銀屏の松(まつ)(ハキ)枝もくれ　支考

寒(さむ)ければ松の屋もるゝもかな　禪師盤溪

秋のそら不二をいろ〳〵におりうるを　江戸尺

又月明日いまぞみなつきせぬ(ぜちなり)の　白枝

繪うけて夏八景をうりありく　芭蕉

又月やたゞ一つ(ひとつ)のあはれにハ　杉

家居ハ繁昌に更ほむらん　禅師　鐵牛

入菴

偃臥（カタスミ）へまりをいぢや子ども　得牛

地炉（ロ）猶ういながら居にいるを　涼佃

綿屑（オリ）くあはしにねくやはき鳴埣（キリ〳〵ス）　涼佃

お信も往めでたきことさうらふを　仝

紀行（キカウ）

志波浦

誓（チカ）ひて人の乳にもかくまじりけり　涼佃

羅漢寺（ラカンじ）

乱れ髪落もかなしさの姫　仝

野宮（のみや）

とけ入ほや牧もはなのあるじ　小柴垣　雲郎

為（たいまてら）麻寺

裔（スソ）八埜糸の文（アヤ）ろを菊のもみ　冠子

猿蓑（かみがさき）

いるつまや誰ぞ波のよ一葉

国立国会図書館　タイトル『古今俳諧明題集』　請求記号 863-182　ガラス使用

鶏鳴石（アフムセキ）

けんの中（ウチ）ぞゆうしきを報のうた　麥林

三井寺の晨鐘（ほとゝぎす）

ほとゝぎすの音をたづねあぢはひて　季吟

更級（さらなる）

をば捨山の後ハ名せうしの　素琴

それそれ更級川や蕎麦まくも　園女

霞（ハル）

ゆく雲の滴ゝあをぞら（あハぢ）　伊豫松山　陳六

大磯

主称名社袂がうらや後の月　青藍

くさぐ

船中

名ほかとハ雨てもらふ女郎花　一茶ハ史にもるゝ

きさゝ舟の情を　上総長南　桃雨

国立国会図書館　タイトル『古今俳諧明題集』　請求記号 863-182　ガラス使用

海のうらに
岩枕(カド)して欹(カケ)ゆく磐や海の
あら海や佐渡に横(ヨコ)たふ天の川　芭蕉
曙(アケ)ゆくや廿七夜も二日月　今
海もさや二日月あや雪まじり　支考
海の日もとけ入海辛(カラ)や秋(アキ)茄子(スヽキ)　雲裡
馬駆(カケ)る音のすみだと遠(トヲ)き事　希因
漆にと立(タテ)のがるる不破(フハ)の関　五竹
月にむせ指(サス)も指のみ枕(マクラ)されろし　涼佾
蕎麦の実(ミ)に指(サス)もさながら黎(アケ)ぼのぞ　紀伊路の湖翁
九月九日
うすやぢにあるべき

とろろ汁人の来(キ)給(タマ)へ蔭(カゲ)あれば　青藍

送(ソウ)別

秋風(シウフウ)の辞(ジ)に同(イツ)指(サス)　麦林
伊勢の入替(いせのいりかはり)

第(ダイ)漆に指(サス)をたむけ指(サス)　涼佾

留(リウ)別(ベツ)

雪まぐれ降(フ)ぬ指(サス)うち　柳居
もろ肩の袖に露(ツユ)置(オク)ころも　麦林
月は秋(アキ)涼兎(リヤウト)ゆく　涼兎

古今俳諧明題集巻之五　終

国立国会図書館　タイトル『古今俳諧明題集』　請求記号 863-182　　ガラス使用

小松をまつに
物書く扇ひさぐ
社中の
いろ〳〵にそゝ
贈答（ゾウタウ）
蚤く動ハ扇むうりぞ
紫蘿（ハツタケ）にまぎ海
書梅多
俳仙寇
曲（アラ）
潮〳〵女
書蓋ハ
まつ

芭蕉
涼依
涼依
支考
涼依

蒲萄にも
涼袋の
まや
よもち
やこゝ
もの
汝
涼依

希因
秋色
江戸女
蘆光
上毛西牧
青藍

国立国会図書館　タイトル『古今俳諧明題集』　請求記号 863-182
ガラス使用

題詠（タイエイ）

三界唯一心（サンガイユイイツシン）

蒲（ヒヤク）ナリ夢や一夏一さとり　素園

三疋猿（サンヒキサル）

木と月とさらに代（セリ）活やくや中比猿　涼佛

如是我聞（ニョゼガモン）

熱（イナヅマ）閃や二度めにうつる橋　白鎚

皆是吾子（カイセゴシ）

蝸牛（ジガバチ）輪にるまぬるもなるく彼岸ッな　沾徳

三笠山石墨（みかさやませきずみ）

苔の歌うつしくうるおいら後　涼佛

墨江名の石をにじむや廉売ら　素園

貪着天上月失却手中珠（トンヂャクテンジヤウノツキヲシッキャクスシュチウノタマヲ）

釣海につまはぐくみやりよ春日

上毛桐生　宇冲

機關木人

国立国会図書館　タイトル『古今俳諧明題集』　請求記号 863-182　ガラス使用

夏のくれ人にもそはかしくる

題畵（ダイグハ）

骸骨（ガイコツ）

竟（ハテ）ハうき名の書やし

兎

耳とつく添もかまぼこ

狂画達摩（キヤウグハノダルマ）

壁に疥癬（クツ）のあしや

鬼山

鬼士

麥林

結於の夢を押へて海図

筆すさんぼハおもうごうさび

西羊

鞏鴉明月之圖（クンアメイゲツノツ）

麻に来てごゐかしくる人社月

賀（ガ）

家の猿あごちうなくをみぐ

さけく牡丹に富貴

石の面

嶺雪

国立国会図書館　タイトル『古今俳諧明題集』　請求記号 863-182　　ガラス使用

時もすぎ紀行に杖(ツエ)をひき馬に

悼(いた)む

雲雀(アサカホ)死(シ)やそうさ遊ばす日業社鸞(ラン)翁(コン)の死もするぐらゐ時

此時をそさくとも雲雀哉　酒堂

母刀自あつしくなるよしそのよし家に

とせしが日あしばたまはよ

日も雲れたまぎれ時しもそれ　能登七尾　有英

希因ながらもとまるとも

情婦も笋(タケノコ)もあぐくと雲のくく　涼仲

九月八日芝山の書

分まうでぬ世にあとまで中菊の香　仝

九月十二日双鯉

人の親も栗にむせぶや十三夜　仝

母の香にこりほくく

火に麦林も雲れも情書香　麦林

麦林作を

釜蓮が芒(スキ)今ぞ

懐舊(クヰキウ)

一笑が跡をそ

冬　雑

人の都(みやこ)を　きき　き　清水小雨石

漫興(キョウ)

ふ陳(ちん)そ　に　居(きょ)をまうけ〳〵

飯料(りょう)に　かゝ　我(わが)　門(かど)　おそ　ち　ど　ま　ゝ　京浮風

おりひうけ　ぬにあへ　ほに

ふ袖に　峰(みね)の　雪　ぐ　ち　な　維然

麓(ふもと)の　雪　ふ　ぐ　ち　な　べ　大和佐保川乞食人

紀行(キカウ)

文字関(もんじのせき)

筆の　名　ぬ　文　ま　こ　さ　り　ぐ　ち　ぞ　ま　小

綿(わた)ハ　日　山　越　く　く

綿ハや　山　姫　吹　海　ま　る　油(カッパ)　ゑ　涼風

国立国会図書館　タイトル『古今俳諧明題集』　請求記号 863-182　ガラス使用

越の淡つゝ

うきくや夏よき後ハ秋

峡 抜山 をだまき てやま

抜〳〵よき峡のふゞ髪や抜 汶上

あ宅閑 あたう のせさ

雪村筆 三の誉中 ヒナカ をうち

名杉の

ふ紙えして

自もひをこゝろやあれぬる歟 京 暁山

冠子

隅田川 すみだ がわ

私訳のよくあるさう

仲生時 ちくぬ しま

水をれ蒲ふるや竹生時 麥林

毎事 コトゞ 足利学校 アシカヾノガコウ

くさ〳〵 武陽 桜巣 柳几

旅人と我名もよばん初しぐれ　芭蕉
枯〳〵さびしきやどに柴くべん　理然

送別（サウベツ）

さまざまに二人の情（ナサケ）や五月雨　凉佛
頃通ひ
見やほさん旅人さへも袖
翁より古々に
序ほを
うつやまし仕官や尾張の友ちどり　凉佛

留別（リウベツ）

あれうづくをかも　岸虎
尾張路ハ後にひく海苔　麥林

贈答（ゾウタフ）

落ち祝ひの

伐く毬ほ佛もおかし冬木立　凉佛
こも家の
冬ごもりぬる庵や牡丹に蕾　希因
のうしへ
菜花や汲んでも歩く火たき
あほ法を
ちりうせ失たる　全

国立国会図書館　タイトル『古今俳諧明題集』　請求記号 863-182
ガラス使用

菜の沸りや笊もり 仝

尼に茶もる人〳〵

枯〳〵〳〵世をうぢ橋の中小 西華

題詠（タイエイ）

修羅道（シュラダウ）

枯菜や都〳〵殘よ一トしれ 洗ㇾ

水仙にうひ〳〵まはをするる 麥林

沉浮自在（チンフジザイ）

水もや暴浪（アラナミ）の法に浮あがる 伊波土田 霞跡

言魂のたもく國 下枝淚水

あるくなき日なき人ぞ煤ぢまる

白（シラ）

初雪や鳥の羽拔雁（ガン）ばかり 子永

題畫（タイガ）

出山像（シュツサンノゾウ）

燈火や曉見れば一トしほ 麥林

達摩（ダルマ）

国立国会図書館　タイトル『古今俳諧明題集』　請求記号 863-182　ガラス使用

拈ㇾ香に假やぶしして　念
夢想ハ皆一切法の拈ㇾ香哉　一音

六歌仙（ロッカセン）

泥（コダツ）う〳〵二人あまやどり　涼佛

東坡（トウバ）

秀ものとれうくも拾ひ筆社雪　其角

莊子（ソウジ）

陳ㇾ約見ハ芝理ぞ河豚汁　涼佛

賀（ガ）

あら〳〵吸秀菴の
春ㇾ雨ハ蕨の
春ㇾ雨ハ蕨の
春ㇾ雨ハ蕨

（アカ）淋きにくもれんぞうせんの
　きぬの人も
　為まるをきにほに
やはよいでみろしるふる女ちごも　麥汀

懐舊（クハイキウ）

芭蕉塚（ばせを つか）

葉をくゞるきぬかやうにみまを　角上

女人の（おさなあと）

葉へこいたるぬを情らや女ちごも　麥林

祝詞（のつと）

於（カレハテ）掌（ヲ）に不思議（フシギ）の物語（ものがたり）を小　秀橘

神（カミ）

神ハ皆波庵の像（ナリ）やそのうら光　其梅

年もうでむはじをいくつ後（のち）に
　神（かみ）にまつづ
不祥（ふしやう）の鰕（エビ）も末社（まつしや）にゆるし雪　涼佛

上世片歌（カミソヨノカタウタ）

○古事紀

いざるぎ（伊弉諾）のみことのいもいざなみ（伊弉冉）
吾（ワレ）と汝（イマシ）と此天（アメ）の御柱（ミハシラ）を行（メグ）り廻（メグ）逢（アヒ）て、ことのまぐはひ
せるのち、かくちぐさ（言）ことあげしたはゞ
あなにやし　えを（愛少女）をとめを
後にいでざりこのみおと
あなにやし　えを（愛少男）をとこを

○檀原宮御宇天皇代　神武

高佐士野（タカサヽノ）にのそべ（ソヘ）居（ヲ）せりのを（ヲ）と絶（タヘ）すゝ（ヲヽ）小大物（オホモノ）を社神の陵（ミサヽギ）

姫（ヒメ）いまそかるとも姫もいはせ給（オホ）とを大久米の命（ミコト）もろ〳〵おのれまへにやせりやがてもころを
御製（ミウタ）歌よみまして答給ふ〳〵

かつ〳〵（且）もいやさきたて（最先立）給ふ愛（え）をしまひ（巻）
則いもとなるとも姫に大久米の命（ミコト）詔（ノリ）つる事時に顯（アラハ）利（ス）目
をまもるまでありてとれがし
言（こと）

天皇（スメラミコト）

天地（あめつち）を坐（ま）し利（と）所（ころ）顯（あらは）利（す）目
あまつひつぎ（日嗣）とありとめ

大久米の命（ミコト）

少女（をとめ）にたぐふあり（逢）もしてわが（我）さける（行）景

○纏向（マキムク）日代宮御宇天皇代　倭建命

東（ヒンガシ）のくに（野）にけぶりをあしひけ（煙）たづぬ（尋）まろ（丸）が（我）かがみ（鏡）の

甲斐（カヒ）酒折（サカヲリ）の宮にして

新治筑波過（にひばりつくばをすぎて）幾夜寝（いくよかねつる）

御歌をつぐ

夜（よ）を重（かさ）ねてよにいもて（九夜日）のよひふかしをうば（十日）

考（かが）へてよにいもて（九夜日）のよひふかしをうば（十日）

陰光老人（ミカゲキノオヂ）

○日（ひ）なたびに能（ノ）火（ホ）呼（ヲ）ふおつ（ふおつ）ます（ます）ら（ら）ば。園（その）志（し）ぬ（ぬ）びゆ（ゆ）ま（ま）ら（ら）く（く）

愛（は）しきやし（哉）吾（わ）家（ぎ）方（へ）雲（くも）立（た）来（こ）

倭建命

○倭建命神さ（八尋）ま（ま）ひて（て）やいろの志（し）ろ（ろ）ちどり（ちどり）とぶ（とぶ）あめに

うけ（うけ）ろ（ろ）く（く）涙（なみだ）にひろひ（ひろひ）てとびいぬ（とびいぬ）ま（ま）す（す）ら（ら）ん（ん）

后（きさき）と御子（みこ）もれみ（もれみ）ろ（ろ）なす（なす）志（し）ろ（ろ）ち（ち）どり（どり）

をはぢ（をはぢ）どり（どり）はまいゆ（まいゆ）ぐ（ぐ）ぞ（ぞ）て（て）ら（ら）そつ（そつ）る（る）よ

○難波高津宮御宇天皇代（十六タカツノミヤニアメノシタシラススメラミコトノミヨ）　仁徳

その（そのの）ち（ち）みこ（みこ）る（る）のこ（女）と（と）社（やしろ）（タオラ）撤（ホキ）せ（せ）ば（ば）を見（み）そなはして（そなはして）たが

ふんにうと御製歌のこしてうひうひしき

高往　鵠
たゝゆくやそやぶさとけの　御衣　豫　女島王

○日本書紀　天皇くゝのくがひめを免ずとおぼせど后の

桑田玖賀媛　愛憐
諺みすふまでえのさでありそしみそり・そのさう

水底経　臣　少女
みなそこふをこのをとめをたゝやしなはむ

誰　将養　天皇　仁徳

○古事紀　天皇とよのあかりしてうたひ給ひしうた

いでまさばそのをにかさゝはさゝらめをまをそうへして大御うた

汝　皇子　治
なゞみこやつひにしらむとかゝはてむらし

雁　卵　産

○葛城忍海之高木角刺宮御宇天皇代　清寧　嬪

鮪　臣　歌垣
しびのをこゝろにたちてよゝ祁の命よとうたひ

たまゝをみなのまをうるゝ

大宮　彼　景　隅　傾
おゝみやのをつはたてもそかゝぬけて

志毘臣

かくくとゝみしてそうも夫をもる

大エ 愚
わほたくこゝろをちるこゝろすゝかさぬけを

○石上廣高宮御宇天皇代 仁賢

見武烈紀 子 大ヘ
ひつぎのこゝ敷嬢をめさむしおぶして

欲垣にたくゝ敷嬢の袖をそふまでを

雛(ヒナ)の居(ヰ)おしするもうるおひそひつぎのこゝ

うゝもをそへく

臣子 弥重 韓垣 縦
をこのこゝやへやからうさゆはせとやみて

志毘臣 衷祁命

○明日香川原宮御宇天皇代 皇極

日本書紀 風 祥
とるさのくんをゆさがもあるうちに

遥 ヤ 琴 所聞
もろくにことぞさゆはむまのやぬだら

○後岡本宮御宇天皇代 皇孫 齊明

紀伊 温泉
まくのくにゆにいでゆにいでますくに

タヘノオホキミ
建王をおもひてよめる哥

愛 朕稚子
うつくしまあがるかまこをおきてゆくのむ

天皇

国立国会図書館　タイトル『古今俳諧明題集』 請求記号 863-182
ガラス使用

○萬葉集　水　寒　上
ちはやぶる神のいがきをすぎあげてくゝりしたを
苅　早　飯　獨　　殖　田　　尼
かはとさいひいむとそもろくゝ

大伴宿祢家持

今世旋頭歌（イマヨノセドウカ）片歌

○今はむとすれどもあひ志る女のおづとりひけ
ばかゞ孫（ウルヽ）の人はあづまおほき（オホキ）大城にまろゝのがれ居をゑむとそ人ゝ
宅（イヘ）にまろでまねくをとゞもそこにあゝひめりにむろひね
まれど志ゝ志ゝ後のひうをそべさおもひにもあゝおだめゝひ
多郎か女のり海原の波おさよゝうなゐにからてゝをなて
志ゞゝ見れど飽もあゝにをゝうなづのまゆの炭して活志
かゝるに。ゝ志まのもゝ住人うれや。ゝ志ゝかへゝゝうて。

女ゝうもゝ海原のゝかへさにふさ沢波にもゝのやうにも志活
りの波をとゝ志たをゝにかゝるゝ志ゝ折いとゝのやゝゝてうゝて見
活か片歌ゝゝ

君ゝてハとゞがおとゝのをを志ゝ

志ゝ

○稲のやどりにゝ柾（サフルコ）刈女婦ふ多ゝ
隆ちゝ小ゞでひとひて日おゝゝゝゝゝゝゝ
ゝちゝゝゝ

ゝ月夜にいとゝぬをりてゝおのがゝゝぬゝ

さて此程の女郎の初の
川をこえるむ行り歌

川舟の篙（サヲ）は右つくにめ
おるごし
お月見はさぬくおりへの
松しく
○むつ大松のかこりをそ武蔵
すくすのひろ原をそんの
さんを松ふくりふぐせんぐへ
ふぬさんがに牧おるひろ

もうりさこのをこと古ちくに
見まくらをこうへくろ
かくりをこ
○むつこうさをとこあるとり
うつくしちうり。そが中にす
あるとり。むつこいしあてに
おをひこうをよくこうをす
わるとりぶおこうもりにも
あいまつまでおこうひちぶこひつ
おこうのうはもちりこにちりく

国立国会図書館　タイトル『古今俳諧明題集』　請求記号 863-182　ガラス使用

そつなをむつべてろさんふもおろかはおりひるをけふ
けをとこれよもんてけふ

老こうまの日をまんでりひとしくやしさ　やちを

くれく

水澤（スミ）をかりげろさあぶ小田高し（とまる）　綾太理

雨漢（アメツミ）日よくをとこちよひろめふふ　破了

ゆく秋に春立ゆのぶちをろ　東起

さやそそろそぶのろゆかろるなくを　百枝

玉章（タマヅサ）のつうひかふをも妹（イモ）が里高み　西羊

萩ろくろぶひくく雁（カリ）下せりか　友梅

日ぐらしのろぶも老ろ秋高山法　雲郎

国立国会図書館　タイトル『古今俳諧明題集』　請求記号 863-182　ガラス使用

三芳野や飛(メ)鉾(ギ)潜(ク)るも藤のくゆ　琳理

かくぞ思ふそや布留(フル)もたちぬるを　禹貢

鴛(オシ)鴦と牡火(ヲカゲ)の火気に妹を見そめし　兎洲

秦せこにくくもち今(メ)ませいくあもこせむ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

863
5
182

19304

まこゝ後のあくまでもてなしあうたまもや

玉の緒をよのくるしむまでのたまゆらを

おもふ

寶暦十三癸未歳燧九月

吸露菴藏板

東都書肆

越後 田村屋 下モ条

通室町三丁目
須原屋市兵衛

京寺町二条上ル
井筒屋庄兵衛

国立国会図書館　タイトル『古今俳諧明題集』　請求記号 863-182　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『古今俳諧明題集』　請求記号 863-182　　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『古今俳諧明題集』　請求記号 863-182

ガラス使用